

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成22年1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400853		
法人名	有限会社 ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき姫路香寺		
所在地	(〒 679-2143) 兵庫県姫路市香寺町中仁野268-1		
	電話	079-232-9430	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年10月5日	評価確定日	平成22年1月27日

【情報提供票より】〔平成21年10月3日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	13人	(常勤12人) (非常勤1人)	/ 常勤換算12.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	23,000円
敷金の有・無	無し		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (300,000円)	(保証金有りの 場合) 保証金 償却の有・無	有り (期間3年)
食 材 料 費	朝食	150円	昼食 350円
	夕食	350円	おやつ 50円
	または、1日あたり 900円		

(4) 利用者の概要 (平成21年10月 3日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性4名) (女性14名)		
要介護1	5名	要介護2	7名
要介護3	5名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年 齢	平均86歳 … (最低72歳) (最高96歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本内科医院 医療法人社団ヨコテデンタルクリニック		
---------	---------------------------	--	--

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地面積が広く、共有空間の設けにもゆとりのあるホームである。日常のホーム内での生活の特徴としては、利用者と職員の協働作業(清掃・調理・洗濯・買い物・菜園手入れ)が多く、利用者が、自分の役割を持ちながら楽しく共同生活をしている様子がうかがえる。地域との交流としては、近隣への散歩・買い物・イベントへの積極的な参加をはじめ、畑の収穫物のやり取り等、地域との双方向交流が構築されている。ホームで飼うことになった犬の世話(散歩・食事)も、利用者にとっての楽しみの一つとして定着しており、また、家族や、地域の方々との交流のきっかけづくりにもなっている。管理者は家族懇親会や会議などを頻繁に開催し、利用者を支援するための情報把握に尽力している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①利用者の個々のニーズに対応できるように、日常の関わりの中で思いや意図を引き出している。「新たな気付き」に対しては『情報交換ノート』を活用することで、職員間で情報共有し個別ケアに活かされるようになった。家族の意見や思いを更に引き出し、介護に反映させる取り組みとして、『家族アンケート』の実施を検討している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	職員全体で取組み、項目別に意見の擦り合わせができています。評価の意義を理解し、得られた結果をサービスに活かすように取組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容およびそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	①運営推進会議は定期的に開催をしている。会議では、家族や外部からの意見や提案も活発に出されている。職員会議で、頂いた意見を検討しサービス向上に活かしている。②グループホーム協議会に、管理者、主任、リーダーが参加し、他のグループホームとの相互見学が実施されるなど、積極的に交流が進められており、地域における協働関係が築かれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	日頃より家族との接触の中で、意見や思いを受け止めるよう情報収集に努めている。「家族への連絡」については、管理者が特に配慮している部分であり、利用者からの手紙と共に職員からの個々に合わせた報告が定期的に報告されている。職員の異動などについては、家族の訪問時に報告の機会を作り、馴染みの関係作りに努めている。検討中の『家族アンケート』に対しても、今後の発展が期待される。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	秋祭りなど様々な地域の行事に参加し、その一員として活発に交流をしている。自治会側からのホームに対する理解も十分であり、災害時など非常等の際には支援を取り付けているなどの協力も得られている。

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族懇親会(年に5、6回)や運営推進会議等で説明が行われ理念の共有化が図られている。事業所独自のテーマである「チームワークを大切に、相手を思いやる」の実現に向けて、地域との関係性を重視した取り組みが行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人の導入時には、オリエンテーションを行い、年2～3回の研修でフォローしている。理念の反映と職員の質の向上に向けて、事業所単体ではなく、法人全体にわたる取り組みも、種々なされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋まつりや町内の民謡会など地域の行事には積極的に参加し交流を図っている。公民館の習字教室などへの参加も心がけている。地域からは野菜の差入れなどもあり日常的に交流がある。また犬の飼育を始めたことで、近隣の子どもが遊びに来るようになり、利用者との交流も見られるようになった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取組んでいる。会議等の際には、第三者評価の意義や目的を伝え、職員の意識にも反映されている。評価の結果を踏まえ改善計画シートを活用し、職員全体で改善に向けて具体的、継続的な取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	会議では事業所の報告を行うとともに、外部からの 活発な意見等を受けている。得られた意見をミーティ ング等で評価、検討し、サービスの向上に繋げるよう 努めている。	○	会議が定例化され意見交換も活発に行われており、 得られた意見をサービス向上に活かされる取り組み が今後も期待できる。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外に も行き来する機会をつくり、市町とともにサー ビスの質の向上に取り組んでいる	姫路所在のグループホームによる連絡協議会に参加 している。行政からの情報収集や、他事業所との 交流を通してサービスの向上につながる意見交換が 行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、 金銭管理、職員の異動等について、家族等に定 期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用者からの便りに、写真を同封し職員か らの近況報告を行っている。健康状態については、 定期的及び随時(変化があった時)に、報告がされて いる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運 営に反映させている	意見箱の設置や会社のホームページに窓口を設け るなど、家族が職員に意見を気軽に伝えられるよう な環境作りに努めている。	○	家族の意見を引き出す取り組みとして、検討されて いる『家族アンケート』の実施を進めることで、更に意 見の表出しやすい環境作りが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員に よる支援を受けられるように、異動や離職を必要 最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用 者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを防ぐため職員の異動は最小 限にするよう配慮している。職員の交代が必要な際 には、引継ぎの期間を十分に取るなど利用者への負 担にならないよう努めている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員育成に積極的に取り組んでいる。職員の段階に応じた研修計画を設定し、外部研修に関する情報提供も行われている。面談により個々の職員に応じた資格取得などの目標設定が行われており、それに合わせた研修受講が可能となるように勤務調整の配慮がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連絡会や協会に所属し、同業者との学習会などを通じて積極的に交流、連携を図っている。相互見学を行うことで、自己啓発やサービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には事前準備として併設のディサービスを利用して頂く等、職員や他の利用者、サービスの場に馴染めるよう工夫している。利用者が安心してスムーズにサービスが受けられる関係作りを心がけ、家族からの十分な聴きとりにも力をいれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において、片付けや料理など、利用者の「できること」を見つけ、ケアに活かしている。家庭菜園では、種まきから収穫までを共に行い喜びを分かち合う実践がなされている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の視点に立って、個々のニーズに対応できるよう支援されている。日常生活の中から得られた情報を、『情報交換ノート』を活用することで、職員間で共有することに努め、意見を出し合う取り組みがされている。	○	『情報交換ノート』の活用により、職員間での情報共有のしくみ作りができておりケアに活かされている。今後も継続して頂きたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスや日常の関わりのなかで、家族の意見を聞き介護計画に反映させている。職員間の情報共有に、『情報交換ノート』が活用されている。ケース会議に利用者家族の出席を促す取り組みがされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター方式を導入し、情報収集に基づいて介護計画を作成している。状況変化の際には、実情に応じたケアが実施できるよう計画の見直しがされている。利用者家族との話し合いの機会を設け、気づきや意見を介護計画に反映させるよう努めている。	○	介護計画において利用者の目標設定を行い、現在利用されている『情報交換ノート』の活用などによりその目標を可視化することで介護計画の経過や達成状況を常に把握することが可能であると思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の診療所や医療機関との連携が図られている。併設のディサービスを活用し、夏祭りや、敬老会などの行事への参加や、カラオケ大会や大浴場の利用など、多機能性を活かした柔軟な支援がなされている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間誰でも気軽に受診相談ができる体制がとられている。以前からのかかりつけ医の受診支援も行っており、家族の協力を頂きながら、受診送迎の支援なども行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた取組み指針を作成し、職員で方針を共有しているが、医師との連携や、家族等の理解を得るなどの課題があり、条件整備に力を入れている。重度化対応への負担やリスクの回避が可能な状況になれば、更に検討を進めていく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人として『原点にたちかえろう』というテーマが掲げられ、「人間の尊厳」に対する意識は高い。事業所ごとに利用者のプライバシーに関する研修が実施され、職員の意識向上も図られている。個人情報の取り扱いについても、これらの記載のあるものは鍵の掛かる場所で管理されており、事業所の指針も見やすい所に掲示されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日の希望によって柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立作りには職員全員が参加している。カロリー計算にも配慮し、旬の材料を取り入れた食事が提供されている。調理の下ごしらえや片付けなど、利用者にも参加してもらったり、職員も共に食卓を囲むなど食事を楽しむ環境作りがされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を確認し、日々の状況や体調に応じて対応されている。週に2～3回の入浴が確保されている。併設のディサービスの浴室を利用して、利用者同士の交流を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や買い物、習字、絵画など個人の要望に対応した支援がされている。飼っている犬の世話を手伝ってもらうことなどで、役割や気晴らしの支援に活かしている。アセスメントから、楽しみごとや気晴らしの支援につなげる努力がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣のスーパーや神社など、心身の活性や気分転換に繋がるよう、日常的に散歩、買物などの外出支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを全職員が把握し、予定外の外出にもスタッフが距離を置いた見守りにより対応している。夜間は防犯と危険防止のため施錠しているが、職員が1階で待機しているため安全面は確保されている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練に取り組んでおり、全職員が夜間や昼間の想定で避難訓練に参加している。地域の自治会支援が得られるなどの協力体制が築けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立を作成している。食事や水分の一人ひとりの摂取状況をチェック表にて記録している。かかりつけ医とも連携し、糖尿病の利用者にはカロリー計算のもと食事の提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、ゆったりとした面積が確保されており、利用者の作品や家庭的な雰囲気を意識した飾り物、生け花も置かれている。リビングでは、利用者が編み物や読書などをして、好きな時間をゆったりとすごしている。庭では、季節の野菜づくりや花づくりもしており、利用者にとっても、庭作業が楽しみごとの一つになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は火を使うことなどがなければ、自身の住まいとして自由に使用できる。以前から使用している家具や小物などの持ち込みも制限をせず、好みのものを活かして落着けるように、利用者本位の空間が作られている。		

※  は、重点項目。